

クジャクチョウ

Inachis io

タテハチョウ科



クジャクチョウ

撮影-吉原利之

名前の由来

翅の表面の模様がオス孔雀(クジャク)の飾り羽の目玉模様を連想させるのでつけられた名。チョウという言葉はもともと「漢語」から取り入れたものである。漢字名：孔雀蝶

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

特定種

該当なし。

形態的特徴

翅にクジャクのような斑紋のある美しいやや小形のタテハチョウ。

区別の付きやすいチョウの一つ。

色彩斑紋はオスメス同じで、オスはメスに比べてわずかに翅形がとがるが性の判別には熟練を要する。



クジャクチョウ



クジャクチョウ。表 (左がオス、右がメス)



クジャクチョウ。ウラ (左がオス、右がメス)

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

類似種と見分け方

特になし。

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期		■		■								
幼虫期		■	■	■	■							
蛹期			■	■	■							
成虫期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

生育環境・分布

好んで路上、岩上などに止まり、花に集まることが多い。

分布：国外分布は、ユーラシア大陸中部から北部。国内分布は、北海道および東北から中部山岳地方。北海道内

分布は、全域。

十勝地方では、平野部から山間部まで普通に見られ、数も多い。

繁殖生態・寿命

年2回発生。成虫は6月下旬～7月、8月下旬～10月に見られる。越冬態は成虫。

卵は食草の葉裏に1時間以上かけて、ピラミッド状に100～200個かためて産み付けられる。

孵化した幼虫は、集団で葉裏に糸を吐いて巣をつくる。3齢以降はあまり巣を造らず葉表に並んで静止することも

多い。終齢は全体がビロードのような黒色で刺激に対しても敏感で口から緑色の汁を出すなど、蝶の幼虫としてはかなりグロテスクな部類に入る。

蛹化は食草を離れ、下草で行われることが多く、時に食草上でも見られる。枯葉が選ばれることも多い。寿命：不明。

他生物との関わり

*カラハナソウ（ホップ）、ホソバイラクサ、エゾイラクサ、コバノイラクサ、ムカゴイラクサを食草とする。

*アキタブキ、タンポポ類、エゾエンゴサク、ヒヨドリバナ、エゾニュウ、アザミ類、クガイソウ、オヤマノエンドウ、など様々な植物で吸蜜が確認されている。

*カシワ、ミズナラの樹液、ブドウの腐果、動物の糞にも集まる。

*卵に産卵しようとする寄生蜂の一種が観察されている。マダラヤドリバエの卵を幼虫が食草ごと食べ、蛹になってから蠅の幼虫が脱出した例があり、この蠅による寄生率はかなり高い。またアオムシコバチや寄生蠅の一種が

幼虫に産卵する。幼虫や蛹を捕食するものとしてはアカアリ、アシナガバチ、クモ類、テントウムシの幼虫などがある。幼虫のなかには病原菌に侵されて死ぬ個体も見られる。



エゾイラクサ（左）とカラハナソウ（右）
クジャクチョウ幼虫の食草

幼虫の食性（食草）

カラハナソウ（ホップ）、ホソバイラクサ、エゾイラクサ、コバノイラクサ、ムカゴイラクサ。

興味深い話

■翅を開閉する場合、あるいは飛び立つ際に前後翅を摩擦して「シャッ、シャッ」あるいは「シュッ、シュッ」という音を出すことがあるが、こういう発音習性はチョウ類には珍しい。

■クジャクチョウの種の学名はio（イオ）といい、ギリシャ神話に登場するペロポネーソス半島を流れるイナコス川を支配する神の娘の名前である。オリムポスの主

神ゼウスに見染められたばかりに、ゼウスの妻ヘーラーの怒りにふれ、悲しく辛い運命に見舞われた美少女イオの涙からクジャクチョウは生まれたと伝えられている。ちなみに日本産亜種名のgeishaは日本の「芸者」からとられた。いずれにしても美しいものから由来している。

■十勝地方のアイヌ語では、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

配慮事項

エゾイラクサなどの食草の自生地が必要。

参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990

「日本のチョウ」海野和男、青山潤三 小学館 1981

「原色昆虫大図鑑 I（蝶蛾編）」北隆館 1978

「名前といわれ昆虫図鑑」栗林慧 大谷剛 偕成社 1987

「北海道昆虫ガイド」北海道昆虫同好会 北海道教育社 1984

「学研生物図鑑 昆虫 I チョウ」監修 白水隆 学習研究社

1983

「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993

「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新聞社 1986

「原色日本蝶類生態図鑑（Ⅲ）」福田晴夫・浜栄一 他 保育社 1983

「コタン昆虫記（4）チョウ篇」井上寿 十勝地方史研究所 1988

「知里真志保著作集 別巻 I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ